

福島県PTA連合会会報
第68号_H17.12.08

P T A ふくしま

第 68 号

福島県P T A連合会
編集/調査広報委員会
印刷/泉印刷所

伝統を引き継ぐ (二本松提灯祭ばやし)



若連から小若へ脈々と
伝統が引き継がれ、提
灯祭で演奏される
(二本松郭内若連)

《主な記事》

- 二本松大会参加記 P 2～3
- 各種受賞団体等紹介 P 4～5
- 目P・東北P研究大会参加 P 4
- 母親代表者懇談会概要 P 5
- 事務局より P 6

二本松大会を振り返って



二本松大会実行委員長

渡邊 守 康

第五十四回福島県P T A研究大会二本松大会を、県内各地より二千二百余名の会員の皆様をお迎えして、盛会に終了できましたことは、会員皆様の熱いご支援とご協力のたまものと、安達地方小中学校P T A連合会を代表して心より御礼申し上げます。

今大会は、「新しい時代を担う子どもたちに豊かな心と共に生きる力を育むP T A活動」をスローガンに、二十一世紀を担う子どもたちの育成に向けて、P T A活動の真の姿を探究し、実のある実践活動の発表や情報交換を通して明日のP T Aの創造を目的に開催させていただきました。

大会初日の分科会は、六つの会場で開催されました。新築された安達太良小学校。岳温泉旅館・ホテルのコンベンションホールを会場に、パネルディスカッションは多くの会員が自由に意見を出し合えて情報交換がで

き、皆さんのP T A活動への熱いお気持ちが感じられました。また、提言方式については、グループ討論後の報告が白熱してまとめるのが大変なほど時間がオーバーしてしまいました。それは、素晴らしいことだとありがたく思いました。

また、二日目の全体会は、会場からのハッスル・ハッスルの催促にもめげず、粛々と終えることが出来ましたこと、誠にありがとうございました。その後、東北大学未来科学技術共同研究センターの医学博士川島隆太教授をお迎えして「脳を知り、脳をはぐくむ」の講演をいただきました。今を旬の先生のジョークを交えたトークに会場から笑いが出たり、会員の皆様には大変喜んでいただけました。主催者冥利につきます。早速翌日、講演依頼の手続きの問い合わせがあったのには、感激しました。終わりに、各関係機関に多大なるご支援とご協力を賜りましたこと誠にありがとうございました。

県P連活動スローガン 子と親とが 共に育つ P T A活動を

県P連研究大会に参加して

◆第一分科会 組織運営

会津若松市P連会長
皆川 誠 治

「学校を積極的に支援し、活性化を図る組織運営を工夫しよう」

をテーマに、陽日の郷あづま館に約四百五十名の会員が集まり、前半は、四校のPTA会長による活動事例の発表、後半は、それらの発表をもとにテーマを絞り、参加者と発表者の意見交換というパネルディスカッション方式で、有意義な分科会が行われました。

特に、須賀川市立大森小学校と埴町立埴中学校では、地域が活発なゆえに、学校やPTAの活動をそれと上手に連携させたり、金山町立横田小学校でも、児童減少と会員の共稼ぎから、思い切ったPTAの組織・活動をスリム化して、地域と密着した三者連携を図る等、それぞれ実情に応じた創意工夫がみられました。また、郡山市立喜久田中学校の「授業モニターとして保護者サイドの参加導入」という、斬新な意匠には驚かされました。これは、保護者が生徒と一緒に五十分授業を受け、授業の内容、学びの実態を体験的に理解



してもらおうのがねらいで、そして、これにより、「家庭学習の必要性や学びのあり方を考える」「子どもとの話題や課題の共有化」が得られたという発表には、多くの参加者から質問が寄せられました。

「ややもすると、形骸化した組織のPTA、何のためにやっているのか理解しないままのPTAになりがち」な昨今、地区によって問題は様々ですが、各単位PTAにとっては、今後の工夫のヒントが得られた二本松大会であったと思われま

◆第二分科会 研修活動

耶麻地区P連会長
村岡 泉

「○○学校の○○さん何か意見ございませんか。」グループ討議開始時には司会者のこんな声が聞かれました。しかし五分十分とたつうちに「ハイ、△△学校の△△ですが、私達の学校ではこんな事業

◆第三分科会 家庭教育(小)

西白河P連会長
片岡 学 秀

第三分科会は、参加者が五百名を超え、急ぎよ安達太良小体育館に会場が変更となりました。本分科会は、「子どもたちに豊かな心を育む家庭のあり方を考えよう」のテーマのもと、県教育庁社会教育主事松本光司先生の適切なアドバイスにより充実した研修が行われました。

パネリストである浅川町立山白石小の角田昇さんは心の教育を訴え、体験活動や親子のふれあいを

をしています。」と積極的に意見が出てくるようになりました。

第二分科会は「生涯学習の視点から研修活動を推進しよう」のテーマのもとスタートしました。まず、いわき市立勿来第一小学校の中野育正さんと会津若松市立第四中学校の阿部潔さんの提言がありました。中野さんの提言では研修と名が付くと親のみととられがちなので親子での研修も大切ではないか。又親子で、親子と教師で意識を共有することも大事ではないのか。阿部さんの提言は、地域の人達と連携を持つためにも生涯学習の機能を持たせることは大変

重要ではあるが、現在の学校ではPTAの役員だけで行うのは難しいのではということでした。

その後、十のグループに分かれたようにテーマの難しさととまどうことなくほぼ全員が意見を述べていたようです。ただ話を聞くのではなく自分も参加できる、多くのPTAの活動内容が聞け、今後の活動の参考になったと思えます。これがグループ討議の良い所だと実感させられました。今後の分科会でもっと多く取り入れるべきだと感じました。

充実させ、人の痛みのわかる心を養い、特に忙しい中スポーツの送迎等時間を有効に使い接していること。浪江町立幾世橋小の安倍靖さんは子どもが野球とソフトに入っているのでチームワークの大切さを学ばせキャプテン(指導者)の気持ちが変わる心を育てていること。会津本郷町立本郷第一小の佐藤義雄さんは、やさしさのある心を育てたい、そのために、親がなるべく意識してスキンシップを心がけることが大切であり親の思いを行動に表すよう接していること。高郷町立高郷第一小の横山和也さんは、パソコンやテレビゲーム等により友人関係が希薄になっ

ている今、体験活動や将棋、スポーツの引率などで子どもにも感動する心を持たせたいことが話されました。

四名のパネラーの方々と同じく口にすることは、私達親が学校や地域での活動に積極的に関わり、第一にあいさつを通して子どもたちとふれあうことが最も大切であると訴えるのが印象的でした。これは子どもたちに対する危機感の表われでもあり、私達親がこれから子どもたちとどのように関わっていくか、じっくり時間をかけて話し合わなければならぬ問題であると痛感させられました。

◆第四分科会 家庭教育(中)

相馬地方P連会長
川村勝彦

第四分科会は「子どもたちに豊かな心を育む家庭教育のあり方を考えよう」のテーマのもと、四名の方々に提言をいただきました。

岳陽中学校PTA会長霞正人氏は「一周遅れの父親の家庭参加教育論」というサブタイトルを付して団塊世代からの検証を示されました。競争に勝つことが幸せになることの証と信じて疑わなかったこの世代のマナーの悪さを氏自身を感じられており、その反省をもとに「いかに人に喜ばれる存在になるか」ということを子どもたちに求めていって将来的に社会はどう変わるかというものです。

西郷第一中学校PTA会長石井満喜雄氏は「参加すること」というキーワードにPTA活動の原点を見つけ、それが親の成長・進歩の足掛りとなり、家庭・学校・地域の連携、交流・理解に結びつくという実践例を紹介されました。

更に、明和中学校PTA副会長小林晋氏は「学校・地域とふれあい、子どもとともに活動する中で考える家庭教育」という明和PTAテーマを提示、子どもと共に取り組む充実した活動が豊かな心

の育成に大きく寄与していることを具体的事例から示されました。

県P連理事の結城省子氏からは「子育て」が「孤育て」「個育て」になっていないかという問題が投げかけられ、子どもとの向き合い方について深く考えさせられる提言がありました。

古川満里子社会教育主事のご助言を加えながらの進行により実のある分科会となったことはもちろん、いずれの提言とも家庭教育への真摯な思いが熱く伝わり、内容深く、参加者にはこれからの活動に大変参考になるものであったと今改めて確信いたしましたところ です。

◆第六分科会 特別支援教育

岩瀬地区P連会長
吉田博道

第六分科会は、「特別に支援を必要とする子どもと共に学ぶ環境づくりを推進しよう」のテーマのもと、会員百六十名の参加をいただき開催されました。川俣町立福田小学校Pが「支援を必要とする子どもを理解し、支えていくことの大切さについて」、河東町立河東第一小学校Pが「特別に支援を必要とする子どもと共に学ぶ環境づくりを推進しよう」、田村市立大越中学校Pが「特別支援教育か

ら考える、生徒と地域との大切なつながり」、県教育庁教育指導領域特別支援教育グループ主任指導主事が、テーマと同じ提言をなされました。発表の中で、一番困っているのは、その子自身である。体験する学習を大いに支援する必要がある。障がいのある者、ない者が共に助け合い、支え合って生きていくことができるように、一人一人のニーズに応じて弾力的に考えていくことが大切である。などの提言がなされました。

◆第五分科会 健全育成

石川郡連P会長
添田保雄

第五分科会では「三者(家庭・学校・地域社会)の連携を深め、子ども達の健全な育成に努めよう」のテーマのもと、桑折町立半田醸

芳小PTA会長羽根田八千代さんより、子ども達の健全育成を図るための実践して来た学校・地域社会との連携した活動について提言をいただき、その中で町内会や地域の各種団体の、子ども達を見守る「ばんべ隊」の活動にPTA役

員、会員が積極的に参加していることなどの事例が報告されました。

その中で印象的だったのが、家庭・地域・学校のそれぞれの輪は小さいけれど、三者が一つになると大きな輪になるという言葉に納得してうなずく参加者も多くおりました。

次に新地町立尚英中学校PTA会長田村民雄氏より、地域と開催する各種行事に、健全育成を目指し全員参加での取り組みについて、保護者との触れ合いや地域の方々との関わりの方々の大切さなどについて報告がされました。提言後、参加者が約三十名ずつ十のグルー

何ができるのか、それは、交流の場が必要とされます。保護者に、施設訪問をしてもらう、この場で、フイフイフイフイフイで付き合っしてほしい、また、支援を必要とする子ども達といっしょに学んだ子ども達の変化は、違和感がなく、助け合うという気持ちを感じられます。

最後にコーディネーターの東和町立木幡第二小学校の校長先生からは、時間が足りず、まともは聞けませんでしたが、会員の皆様の活発なご発言により、本分科会の目的を十分に達成することができました。やはり、チャレンジがなければ、成果もないの一言です。



プに分かれグループトークング方式で活発な討議がなされ、登下校時の子ども達を事件事故から守る地域社会・PTAとしての取り組み方や、家庭内で親子・きょうだい・祖父母との関わりの方々の大切さや地域との関わり方の問題点などについて、各グループ別に発表していただきました。また、「健全育成について議論する際、学校の規模や小・中学生では問題となる視点が異なってくるためその点も考慮に入れて分科会を運営してほしい」という貴重な意見が出されました。

最後に佐藤明彦様、齋藤セツ子先生より指導助言をいただき閉会となったが、健全育成に関する内容は多岐にわたるため時間が短かったと感じる参加者も多く、また反面得るものも多い分科会だったと感じました。

晴れの表彰

おめでとう

いっしょに喜びます

◆文部科学大臣表彰優良PTA

- ・石川郡平田村立小平小学校PTA
- ・福島県立会津養護学校父母と教師の会

◆日本PTA会長表彰

- ◇団体
 - ・須賀川市立第一中学校父母と教師の会
 - ・いわき市立中央台北小学校PTA

◇個人

- ・小松 良行 (県P連前会長)
- ・貝田 美郎 (県P連副会長、日P評議員)
- ・居川 孝男 (県P連副会長、日P評議員)
- ・水野 武和 (県P連前副会長)

◆東北PTA連絡協議会会長表彰

◇団体

- ・国見町立小坂小学校父母と教職員
- ・本宮町立本宮第一中学校父母と教師の会
- ・郡山市立御館中学校PTA
- ・小野町立浮金小・中PTA
- ・会津若松市立城北小学校父母と教師の会
- ・いわき市立勿来第二小学校PTA

愛知リポート

達南P連会長

古俣

猛

第五十三回日本PTA全国研究大会愛知大会に八月二十七・二十八日の日程で参加いたしました。前日は台風直撃の影響で新幹線が途中静岡で停車してしまい、無事に到着出来るのか心配しましたが、なんとか一時間程度の遅れで名古屋に到着しました。

さて私は初日、PTA会員が積極的に、楽しみながら活動できる組織・運営という第一分科会に参加し、テレビ寺子屋でお馴染みの中山靖雄先生を講師に迎え「共に育つよるこび」というテーマの講演をいただきました。特に不治の病におかされ、その病気により体のほとんどが不自由な少女と昼夜を問わず、娘の介護をされている母親の七夕の際の短冊に書いた願い事のエピソードには、参加者のほとんどが嗚咽していました。かくいう私も最後まで涙が止まりませんでした。母親の願い事は「もし神様がほんとうにいらっしゃるなら、どうぞ一日でもかまいませんから娘より長生きさせてください」。娘さんの願い事は「どうか神様、お母さんより一日だけでも

早く死なせてください」。受けとめ方はいろいろですが私が私は強い感動とショックを受けました。昨今の親子が傷付け合うような事件が信じられません。

最終日の全体会は壮大な規模で行われ、記念講演はさだまさし氏の持ち歌の数々とその歌詞にちなんだユーモアと感動溢れる親子の話しに一人一人近い来場者を魅了していました。今回の大会に参加して改めて親子のきずなの大切さとPTA活動の重要性を痛感させられ、今後のPTA活動の大きな糧となりました。

北村山大会リポート

県P連母親代表理事

結城 省子

(社)日本PTA全国協議会第三十七回東北ブロック研究大会北村山大会が、九月十日、十一日の両日に村山市を中心に、かわりの中で育てよう、たくましく生き抜く子どもたちを「夢と未来を語り合おう、東北のどまん中」を大会スローガンに開催されました。

私は第七分科会「特別課題―「世代をこえて語ろう 子育てについて」のパネリストとして参加

させていただきました。事前打合せを何度かさせていただき、コーディネーター、五名のパネリスト、運営委任者の方々と、どのように分科会を進めたら良いのかを話し

「学校、地域、家庭」ということが言われて久しいですが、具体的にどのように行ったら良いのか考へることも多々あると思います。地域の行事に子どもと一緒に参加してみる。学校の行事に地域の方々にも参加していただく。もともと、地域の方と子どもたちが参加して、異世代交流が盛んな所は別としても、親はもともと地域の中に入っていきと、子どもも「地域の子ども」として皆さんから受け入れていただけるのかなあと感じました。今の時代だからこそ「異世代交流」が大切だと思います。



村山市民会館で第38回東北ブロック研究大会郡山大会のアピールをする
宮本会長と郡山市P連のみなさん方

合いました。当日は、(一)地域における異世代間交流、(二)家庭における世代間のかかわり、について熱い議論が交わされました。子育てを

これから育っていく子どもたちを皆んなで見守り育てていきたいと感じた大会でした。(郡山市P連母親委員)

◇個人

【感謝状】

- ・小松 良行 (県P連前会長)
- ・小松 榮 (県P連前事務局長)

【表彰】

- ・加藤 隆 (県P連前副会長)
- ・鈴木 修典 (県P連前副会長、監事)
- ・内藤 徳夫 (県P連前副会長、理事)
- ・新城 基行 (県P連前副会長)
- ・峯島 和彦 (県P連前副会長)
- ・岡崎 正子 (県P連前理事、母親代表)

◆福島県教育関係功労社会教育関係

◇団体表彰

- ・原町市立原町第三小学校父母と教師の会
- ・棚倉町立山岡小学校PTA

◆福島県PTA連合会会長表彰

- ・小松 良行 前会長ほか三十八名

【団体表彰】

- ・福島市立大島中学校父母と教師の会他三十四団体

【個人表彰】

- ・齋藤 高裕 (福島) 他百二十一名

※全名簿は県P研究大会二本松大会要項に記載してありますので参照してください。

第十一回県P連郡市P母親代表者懇談会

県P連母親代表理事

早坂 静 枝

平成十七年度母親代表者懇談会は、各郡市P連より小・中学校約四十名の参加をいただき、午前は、社会教育主事の松本光司先生を講師にお迎えして、「これからの家庭教育に求められるもの」～父親の参加とPTA活動の活性化～と題し、お話いただきました。

午後は、小・中学部会に分かれてバズ・セッションをおこない、それぞれ活発な意見交換となりました。

先生の講話では、はじめに子どもたちの現状について話され、核家族・少子化に伴い家庭と学校だけの生活から、社会性を学ぶ場がないようになってきている。子どもの遊びの変化については、昔はケンカもしたが、その中から譲り合いも学んだ。現在は、ゲームを持つているから遊ぶ…など『物』で遊ぶという変化があるようだということでした。

また、入学・卒業式、授業参観などの学校行事やキャンプなど昔の父親より参加しているようだが『父親不在』と言われるのは、な

ぜなのだろうか？それは、子どもと一緒に遊んで遊んだりする

が、ゴミやタバコなどを平気で捨て、子どもに規範意識として何かを教えるわけではないという。例えば、靴の脱ぎ方にしても父親として、『玄関がきれいになるからね』と意義付けをしながら教えた

り、また、仕事で留守を待っていて、母親が「お父さん、なんて言っただけ？」と父親の存在を感じさせることも大切なことだと話されました。

先生から父親の家庭教育参加への五つのポイントを次のようにお話いただきました。

- ①日常生活の中でお父さんに話しを聞いてもらう。
 - ②自転車、キャッチボールなどをして子どもとの経験の幅を広げてもらおう。
 - ③星、工作、海、川と一緒に楽しみながら勉強して、興味をもたせる。
 - ④家族の中で決まり事を作って、ウソをついたら叱り、社会のルールを教える。
 - ⑤小さい時から、お手伝いの習慣をつける、ほめる場面をつくる。
- このほか「親父の会」などの地域活動への参加など他県の事例も

聞くことができました。

親子の会話は、親が暖炉で、子は薪となり、その会話で親もがんばろうという気持ちになれる。会話という「愛のキャッチボール」はチャンスであり、親がいいアドバースができる。

また、早い時期にいじめや辛いこと、困っていることを親が気持ち解決できるなどの親子の会話がとても重要なものだと言われました。

午後の小・中学部会では、「父親が参加しやすいPTA活動にするため、今何ができるか」というテーマでグループ討議し発表していただきました。

学校から配付された「学校だより」を全員が見えるところに張る。母親が父親に学校や子どもの様子を伝える。PTA活動の切り口を変え球技大会などに誘うなどの意見のほか、スポ少など地域の中での保護者の指導者や部活動の送迎は、父親の参加も多いので、その繋がりを大切にして各行事へ呼びかけたなどの意見も出されました。

今、物質的な豊かさから心が貧しくなってきたと言

われています。地域との関わりや親子のコミュニケーションが希薄になり、物を与えていても子どもに寂しい思いをさせていることも原因のひとつかと考えられます。

親が、子どもに求められても必要か不必要か見極め、話し合っ物を買いは与えることが子どもに對しての愛情だと松本先生のお話から学ぶことができました。

そして、PTA活動に、より多くの父親が参加し、親子共通の楽しい会話ができるよう各班で意見交換したことを今後の家庭教育の中で、また学校でいかに実践できるかが大切だと感じました。

(いわき市P連母親委員)



東北大学未来科学技術共同研究センター教授 川島隆太先生の二本松大会での記念講演

ふるって応募ください

◇子ども災害事故防止習字・ポスター展

実施要項を各学校に送付しておりますが、今一度ご確認いただき、多数のご応募をお待ちしております。

- ・応募締切 平成18年 1 月末日
- ・作品送付先 県 P T A 連合会事務局

◇学校新聞、PTA広報紙コンクール

各学校 P T A では、それぞれ特色ある新聞、広報紙を発行されていることと思います。ふるって応募くださいますようお願いいたします。

- ・応募締切 平成18年 3 月30日
- ・送付先 福島民友新聞社事業局
「県小中学校新聞・
P T A 広報紙コンクール係」

年末年始の交通事故防止を

「うつくしま 無事故の主演 あなたです」

のスローガンのもと、「年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動」が下記により実施されます。

●期 間

平成17年12月10日(土)
～18年 1 月 7 日(土)までの29日間

●運動の重点

- (1) 高齢者の交通事故防止
- (2) 飲酒運転の追放
- (3) シートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底

年末年始は、交通事情が大きく変化します。そのような中で事故ゼロに向けてどう対応したらよいかを、学校で、家庭で地域で話し合い、その実践をお願いします。

大人自身が規範意識を確立し、子どもの手本となり実践することが最良の教育です。

「虐待に苦しむ子どもたちのために私たち P T A ができることからはじめよう」と記された日本 P T A からのポスターが各学校に掲示されています。児童虐待という痛ましいニュースを見聞きするたびに心が締め付けられる思いです。

かけがえのない命の尊さは言うまでもないことですが、この世に生を受けた子どもたちが、安心して生活できる状況をつくることは、我々大人のつとめであると思います。

「山下清とその仲間たちの作品展」をみる機会がありました。彼の能力を大きく開花させた「八幡学園」のモットーは「踏むな 育てよ 水そそげ」です。この意味をじっくり考えてみたいものです。

(T・H)



安全互助会から【お知らせ】と【お願い】

前号でお知らせのとおり、平成18年度から入会申し込み時期など、一部変更となります。加入コースの決定が早まります。(5月末日→3月10日)したがって、各単Pでは3月10日以前に加入コースの決定をしていただくこととなります。早めの対応をよろしくお願いいたします。

- ◇事故(傷害、賠償いづれも)が発生したら、速やかに該当する「事故報告書」(傷害事故報告書、賠償事故報告書)をFAXで送付してください。その際、特に必要がなければ送り状は付けなくて送付願います。
- ◇「個人情報保護法」の施行により、「見舞金請求書」「申告書兼医療照会同意書」に記載された個人情報の取扱いについては、これまで以上に慎重を期してまいります。局内のシュレッターで適切に処理しています。

福島県 P T A 連合会 (TEL 024-545-5982 FAX 024-545-5990)

《提携損保》 **共栄火災海上保険株式会社**

〒960-0231 福島市飯坂町平野字三枚長1-1 JA福島ビル2F

TEL 024-554-3006(代) FAX 024-554-3023